

## <適期作業のポイント>

### ①排水対策の徹底 ②土壌分析の実施 ③麦踏み3回以上の実施 ④赤かび病防除の徹底

月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>発芽</span> <span>分けつ期</span> <span>幼穂形成期</span> <span>茎立期</span> <span>穂揃期</span> <span>成熟期</span> </div>																													
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">排水対策 土壌改良 基肥施用</div> <div style="text-align: center;"> <p>県北播種適期 県中播種適期</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">麦踏み</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">麦踏み</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">麦踏み</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">赤かび病防除</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">収穫</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">乾燥・調製</div> </div>																													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">除草剤散布(土壌処理剤)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">除草剤散布(茎葉処理剤)</div>																														

#### 作業・管理

- 1 ほ場の選定・排水対策**  
◎排水良好なほ場を選び、**ほ場周囲に明渠**を掘り、排水溝につなげる。
- 2 土壌改良**  
◎土壌分析に基づき施用量を決定する。施用例は以下のとおり。  
(例)苦土炭カル 60~100kg/10a (目標 pH6.5)  
OM-37 毎年 80~100kg/10a  
牛ふん堆肥 1t/10a
- 3 ほ場準備**  
◎作土深を目標にロータリー耕を行う。  
◎砕土を丁寧に行う。砕土が不十分だと出芽不良、除草剤の効果が低くなる。
- 4 施肥量**  
◎窒素成分で水稻跡 **6.5~8kg/10a**
- 5 種子消毒**  
◎**必ず種子消毒**を行う。
- 6 播種量、播種時期**  
◎播種量：**8.5 kg/10a**  
◎播種時期 県北部(矢板市、塩谷町、那珂川町) :**11月1日~15日**  
県中部(高根沢町、さくら市、那須烏山市) :**11月6日~20日**  
・**年内に3~4葉期**を確保し、麦踏みを行えるようにする。  
・倒伏防止のため、**播種深度は2~3cm**とし、極端な浅播きは避ける。
- 7 麦踏み**  
◎**年内に1回、年明け後から茎立期直前までに3回**行う。  
◎特に品質向上のため、**必ず茎立期直前に麦踏み**を行う。  
・分けつの増加、凍上害防止、良好な穂揃い、成熟ムラ防止等の効果がある。  
・土表面が乾いている時に行う。乾き具合の目安は靴の裏に土がつかない程度。

- 8 雑草防除**  
(1)播種後、全面に土壌処理剤を散布する。  
◎雑草茎葉散布が可能でイネ科雑草に有効な剤は、使用時期の晩限が**最長で麦2葉期**までと限られているため、**播種後の全面土壌処理剤**による防除が重要である。  
(2)その後の雑草発生程度により生育期処理を行う。  
表 広葉雑草に有効な主な薬剤例 (登録情報:令和6年11月5日現在)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	HRAC
ピラフルフェンエチル水和剤	雑草茎葉散布又は全面散布	大麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期) 但し、収穫45日前まで	2回以内	H:14
ベンタゾン液剤		生育期 但し、収穫90日前まで	1回	H:6
MCPA ナトリウム塩液剤		幼穂形成期 但し、収穫45日前まで	1回	H:4

※農業使用の際は最新の登録情報を必ず確認する。

- 9 赤かび病防除**  
◎**穂揃期(注)7~10日後**に行う。  
・多発の恐れがある時(不稔粒発生・登熟期連続降雨)は、1回目散布7~10日後に2回目の防除を行う。  
(注)穂揃期:全茎の80~90%が出穂した日

- 10 収穫**  
◎**穀粒水分25%、成熟期(注)から3~5日後頃**で収穫を行う。  
・目安:8割の穂首が90度以上曲がった頃  
◎赤かび粒が発生した場合、**必ず刈り分け**を行い、製品に混入しないようにする。  
(注)成熟期:穂首が黄化し養分の転流が止まった時期・穀粒水分40%程度